

1. 発達支援の 3 原則

- ① ポジティブ・リインフォースメント（正の強化）
ほめる、ご褒美、一緒に喜ぶ、達成感、肯定などによる「報酬系学習」のほうが、叱る、禁止、罰、脅し、否定などによる「嫌悪系学習」より倍以上重要。
- ② スモール・ステップ（一歩ずつ成長）
「這えば立て立てば歩めの親心」は△
- ③ マッチング（環境調整）
合わない環境に合わせ(させ)る努力よりも、合う環境に飛び込む(ませる)勇気のほうが後々の実りが大きい。

2. 我が子の特性・タイプ・向き不向きを知ろう

- ・ こだわり、過集中、視覚優位、落ち着きの無さ（新奇刺激接近性）などの発達特性は、脳の「くせ」。その子の部分であり全部ではないし、消すこともできない。
- ・ IQ より EQ、認知能力より非認知能力、学歴より技能の方が「生きる力」となる。
- ・ 家事（掃除・洗濯・料理・買い物・ごみ捨てなど）は生活の基本であり、QOL を向上させる。学歴や資格は大して QOL を向上させない。
- ・ 興味あること、夢中になれること、とりえ、は「生きる意欲」になり、余暇スキルやチル・スキル（ひとりでのんびりするスキル）は「人生を楽しむ力＝心の豊かさ」になる（NHK 教育 E テレ「キラキラムチュー」は必見！）。

3. 私が出逢った親たちから学んだこと

- ・ 子育ての三つの「ひ」の心得
～ひとりぼっちでやらない、ひっしにならない、ひととくらべない～
- ・ スペシャルタイムは何歳になっても大事。特に思春期前後の母と娘は「へその緒を繋ぎ直す」時期。
- ・ 問題行動、困った症状、困った癖などに対しては、「この子のこれをどうやって取り除くか」ではなく、「この子と一緒にどうやってこれに取り組むか」である。
- ・ 他人（世間・社会）を信じて援助要求を出すことで道が開ける。
- ・ 支援者（専門家）を育てるのは保護者・家族。支援者全てが最初から優秀だとは限らない。できない・分からないことが多い支援者の心に「知ろう・分かって・勉強しよう」という情熱を灯すのが保護者・家族。
- ・ 当事者にしか分からない「苦労」を共感しあう（分かち合い＝シンクロニシティ＝ハモる）場は大切。